



年頭所感

北海道知事 高橋 はるみ

道民の皆様、明けましておめでとうございます。

お陰をもちまして、私が北海道知事として3期目の重責を担わせていただいていたから、初めての新春を迎えることができました。皆様には、平素から道政各般にわたり深いご理解と暖かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、3月11日に発生した東日本大震災と福島第1原子力発電所の重大事故という我が国の経済社会全体に大きな影響を及ぼし続けている未曾有の事態に直面するとともに、相次ぐ集中豪雨や大型台風の上陸、急激な円高や世界的な景気後退が、厳しさを増す経済と暮らしに追い打ちをかけ、TPP協定交渉への参加問題に国全体が大きく揺れ動いた、まさに「戦後最大の危機」を迎えた一年でありました。

道内におきましても、景気の低迷や大震災の爪跡が道民の暮らしや経済に深刻な影響をもたらす中、原子力発電の安全性を巡る諸課題、JR北海道の重大事故やHACの重大インシデントの発生、さらにはTPP問題への対応など、かつてない複雑で難しい課題に直面しました。こうした課題への対処や1日も早い景気回復に向け、道民の皆様と手を携え、「地域」に徹底的にこだわり、あらゆる手段を講じて全力を挙げて取り組んでまいりました。

一方では、上海や北京、台湾など東南アジアでの積極的なトップセールスを通じて、今後の交流拡大に向けた確かな感触をつかむことができたほか、「食クラスター」プロジェクトの本格的な展開をはじめ、「再生可能エネルギー」活用の新たな広がり、麦チェーンを進める中での期待の道産新小麦「ゆめちから」のデビュー、「なでしこジャパン」や福島千里選手など「どさ

んこ女子アスリート」の活躍など、北海道の明日につながる力強い歩みが見られた一年でもあったと実感しています。

いま北海道は、大震災による影響に加え、様々な危機に直面していますが、北海道の未来への確かな道筋を切り拓くためにも、この危機をむしろチャンスと捉え、震災後の「新しい基軸」の中で、時代の変化や世界の潮流を見据えて、戦略的な取組を積極的に推進していくことが重要です。

そのためにも、北海道の大きな強みである「北海道価値」を最大限に活用し、食産業立国や新たな海外市場への戦略的な展開、中小企業の支援など「経済再生と自立型経済産業構造の確立」に向けた取組を一層推進するとともに、災害に強い地域づくりや成熟社会の実現など「安心して住み続けられるふるさとづくり」、さらには、再生可能エネルギーの導入促進や次世代環境モデルの構築、バックアップ拠点構想の推進といった本道の優位性を活かした「先進的社會モデルの創造」に向けた取組などを力強く進め、北海道の「新しい未来図」をしっかりと描き、その実現を目指してまいります。

かつてない大変革の時代を迎える中、私たちの前には大きな困難が立ちはだかっておりますが、世界、そして未来を見据え、地域輝く新生北海道を築き上げるために全力を尽くしてまいります。引き続き、道民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が、皆様にとりまして、希望に満ちた幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。